

| | |
|------------------------|--|
| 1 日 ち | 令和元年11月13日 |
| 2 視 察 先 研修名、主催者及び会場 | 茨城県つくばみらい市国土技術政策総合研究所(国総研) |
| 3 参 加 者 | 嶋内九一、柴田雅也、吉田企貴、城處裕一、玉置真一 |
| 4 調査・研修の テーマ | 防災・減災への取り組みと国土強靱化について |
| 5 主な内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 国土整備に関連する法規の制改定における技術的根拠がいかんして確保されているか。 ・ 先端技術の視察 |
| 6 所感、提言事項、課題 等 | <p>【議員氏名】 吉田企貴</p> <p>国土交通省の直轄研究所において、いかんして法整備のエビデンスとしているのかが理解できた。また、先端技術の研究成果は多治見市においても大いに活用が可能であると感じた。</p> <p>【議員氏名】 柴田雅也</p> <p>前日の国土強靱化についての調査に続き、国土交通省の機関であるつくば市に立地する国土技術政策総合研究所を視察した。</p> <p>この施設は国土交通省が管轄する交通安全対策、橋梁、下水道管渠など各分野の技術向上のための研究施設であり、本市の各所管課においても技術的に参考にすべき点が多くあると感じた。</p> <p>特に通学路など歩行者を守るガードパイプの技術向上は必要に迫られている交通安全対策において衝突軽減のガードパイプの技術開発は特に関心を持った。</p> |

| | |
|----------------------|--|
| <p>6 所感、提言事項、課題等</p> | <p>【嶋内九一】 大野事務所の計らいで視察が叶ったが、国交省の政策の方向性が大いに理解できた。また、国民の安心安全が守られているのは多くの技術者の目に見えぬ努力の賜物であると改めて実感した。</p> <p>【城處裕一】 国総研では、広大な敷地のなかで災害・事故対応への高度な技術支援と対策技術の高度化を目指し活動して見えます。浸水予測システム、及び情報配信システムの開発と社会実装実験。土砂・洪水氾濫被害の軽減への取組。インフラの効率的・効果的な点検・補修の実現を目指す取組などなど、強靱な国土、安心・安全を支える研究を日夜続けておられます。ここでの研究の成果が、我々の生活に直結していることを感じました。</p> <p>【玉置真一】 国土交通省の直轄として、試験、研究機関、政策展開に必要な技術基盤となるデータ収集、分析、管理を広大な敷地の中で約60の施設で様々な実験を実施し、社会へ還元している。近年シミュレーション等により様々な実験結果が得られるが、出来るだけ実際の現場、地盤、地質に沿った施設での試験が大切と思った。</p> <p>優秀な人材、広大な敷地での多くの実験施設を視察させて頂いたが、各所に老朽化が見られた。国の強靱化に向けた要の実験施設なので早急な改善を願う。</p> <p>現場からの橋脚、配管、舗装路などサンプルを目の当たりにして、表面はわずかなヒビ、亀裂、剥がれであっても内部が浸食、劣化等によりもろくなり倒壊の恐れがある場合があると知った。市内でも細かく橋脚など総点検が必要と感じた。</p> |
|----------------------|--|

写真



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。